





## 審査結果報告書

2019年 1月 28日

主査氏名	福田 倫也	
副査氏名	高平 尚伸	
副査氏名	東條 美奈子	
副査氏名	神谷 健太郎	

1. 申請者氏名 : DM15025 原田 愛永

2. 論文テーマ :

Asymptomatic peripheral artery disease and mortality in patients on hemodialysis

(下肢症状を呈さない末梢動脈疾患の合併が血液透析患者の生命予後に及ぼす影響)

※1月28日タイトル変更

3. 論文審査結果 :

本学位論文は血液透析患者を対象に、罹患率が高い末梢動脈疾患 (PAD) のうち血流障害による歩行時の下肢症状を有さない無症候性 PAD に焦点をあてて、当該疾患が患者の生命予後に影響を及ぼすか否かに関して詳細に検討した後ろ向きコホート研究結果をまとめたものである。

その結果、全対象者 310 例のうち、87 例 (28.1%) が PAD と診断され、そのうち 58 例 (66.7%) が無症候性 PAD であったこと、無症候性 PAD を有する者及び症候性 PAD を有する者の死亡リスクは、PAD を有さない者に対して推計学的に有意に高く、それぞれ 2.0 倍、3.2 倍であったこと、無症候性 PAD と症候性 PAD を有する者の間では、死亡リスクに有意な差は認められなかったことが明らかになった。

無症候性 PAD は症候性 PAD と同様、血液透析患者の生命予後を不良にさせる要因であることを初めて明らかにした点が本論文の新規性である。無症候性 PAD を有する者は、低い身体活動量及び運動習慣の影響によって動脈硬化が進展し、死亡リスクが上昇した可能性を考察していることから、今後の研究の発展も大変期待され、臨床的にも意義深い。

以上より、博士 (医学) の学位取得に相応しい論文と判断した。